

落盤で二人生を埋め

勿来 14時間後無事に救出

十四日午後四時四十五分勿来市出張大日本炭鉱勿来鉱業所第一鉄南坑五西片下層排気ント(坑口から二千二百七十㍍)付近で二百五十分に及ぶ落盤があり、落盤するためレールその他施設の撤収作業に従事していた同市出張社宅二十号保佐係員小島正松(さんじま まさまつ)と同市出張社宅二十号保佐係員鈴木勇男(すずき いさむ)の三人は奥を閉め込まれたが、必死の救出作業の結果、十五日前二時過ぎ、約十四時間ぶりに全員が無事救出された。

陥坑にと撤収作業中

三人は幸い落盤の現場から奥にいたため、ケガ一つしなかったが、事故の原因について、会社側は「個所近く壁倒れるため施設の撤収作業を行なっていたところで、壁が倒れ、岩盤が倒れた」などと語っていた。

補導員が九時

で死ぬよなことはないと確信していた。試しに空腹を感じ疲労を覚えたが、お互に励ます。そこで救出されるのを待てました。

私が細野さんは身体に異常はないが、鈴木さんは一番疲れたの

で、壁が倒れていたところ

